



田村市立都路中学校

学校だより 第16号

平成31年 1月 9日 (水)
発行責任者：校長 田中 淳一
TEL：0247-75-2009

めざす生徒像：自らの志を語り、目標に向かって主体的に努力できる生徒

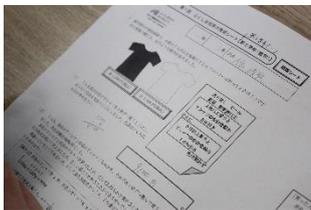
めざす学校像：志を育む学校 学び合い、高め合う学校 信頼され、愛される学校

読書活動の充実

生徒の豊かな人生と地域の未来を創り出すために、学校と家庭・地域が一体となって取り組む価値のある活動が「読書」です。本校では、12月19日(水)、全校ブックトークを行いました。ブックトークとは、5～6名のグループに分かれ、自分が読んだ本のおもしろいところ、感動したところを紹介し合う活動です。本校では初めてのブックトークでしたが、生徒たちは自分の選んだ本について、意欲的に語り合っていました。年明けには、ブックトークよりもハードルの高い、ビブリオバトル(書評ゲーム)に取り組んでいきます。今後も生徒が様々な本に触れ、自分の視野を広げたり、考えを深めたりできるようにしていきます。



活用力コンテスト1



福島県は、小・中学生の活用力(各教科で学んだ知識・技能を活用する力)を身に付けさせるために、国・数・英・理・社の各教科ごとに「活用力育成シート」を作成し、各学校に配信しています。本校では、このシートを活用して、「活用力コンテスト」(活コン)を実施しています。全校生は、昼や放課後の20分程度の時間を使って、シートにある問題に挑戦しています。1回目のコンテストが終わり次第、成績優秀者は表彰する予定です。生徒たちには「活コン」を通して、活用力について考えたり、活用力を身に付けたりしてほしいと思います。



租税教室



12月19日(水)、3年生を対象とした「租税教室」(社会科)を実施しました。講師には、税理士の宗像住孝先生をお招きしました。生徒たちは小学校時代から先生のお話を聞いていますが、先生の巧みな話術と身近な事例に引き込まれ、終始楽しく授業を受けていました。今回の授業では、「収入額が異なる人たちに、税をどのように負担してもらうことが公平と言えるか?」「来年導入される消費税について、8%と10%の境界はどのように決めたらよいか?」など、身近で具体的な課題が出されました。次代を担う生徒たちが、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考えることの必要性を改めて認識しました。



